



9月号

学校だより

育ち学ぶ当事者 支える当事者 下福田小学校

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 健康で明るい子
- がんばる子

令和6年9月2日

高い壁がプラスになることも

学校長

2学期が始まり、子供たちが戻ってきた学校は、また賑やかになりました。大きな事故や怪我などはなかったようで安心しているところです。先日、教頭先生がこれまで校内に掲示してあった夏休み期間中の催し案内を張り替えていました。色々な催しや地域での行事に参加する機会もあったかもしれません。学校とは違う場での経験から何か一つでも得ることができたのであれば、夏休みの意義といえると思います。心身ともに少し成長したであろうところを、2学期の学校生活の中で発揮してくれることを期待しています。

先日、子供たちへのチラシを目にしました。今月末に桜丘学習センターで「プチロボで競走しよう！大和大会」という催しがあり、その案内でしたが、この事業、20年ほど前に私が立ち上げたもので、その頃のことを思い出し、とても懐かしく思いました。

当時、人事交流で横浜市桜木町にある神奈川県立青少年センターというところに勤務していました。学校とは全く異なる業務となり、戸惑うことの多い毎日であったことに加え、その頃は全館改装に伴うリニューアルオープンの時期であり、新規事業を立ち上げなければなりませんでした。その中の一つが、小学生に向けたロボット関連のものでした。

上司から指示を受け、ゼロから企画しなくてはならず、何をしたらよいか試行錯誤を繰り返していました。何とかロボット工作という形を整え報告したところ、ダメ出しを受けました。様々な条件を踏まえた上であることを説明しても、頑として受け付けてくれず、まさに壁となりました。不満を抱えながらもそこから改めて知恵を絞り直し、やっと行き着いたのが、午前中工作、午後競技会という、走行コースを含めた今でも続くスタイルです。上司からもやっと承認が下り、高く聳えていた壁を、晴れて乗り越えることができました。

今思うのは、上司が高い壁のままでいてくださり良かったな、ということです。安易な妥協があれば、当時の私の苦労は少なく済んだのですが、ここまで長く続くような催しを思いつくことにはならなかったに違いありません。

子供たちは毎日の学校生活を送る中で、色々な壁に突き当たることもあるでしょう。壁を乗り越えることができれば、その経験は成長につながる良い機会となります。反対に今はまだ乗り越えることが難しい、ということであれば、「三十六計逃げるに如かず」という諺もある通り、上手に回避できる知恵を身に付けていく必要があります。そこは「支える当事者」である大人の役割として、しっかりと見極めて助言していかなければと思います。